

災害から

身を守るために

6月に入り、今年も梅雨の時期を迎えました。近年「局地的大雨」が全国各地で頻発しており、こうした現象は、全国どこで発生してもおかしくないといわれています。災害から身を守るために、平常時から備えについて確認しておきましょう。

閩危機管理室 ☎32・2042



平成16年10月台風23号の暴風雨による災害(新野東)

「局地的大雨」とは・・・

夏場などに大気の状態が不安定になり、積乱雲が発達して局地的に激しい雨を降らせる現象のことで、数十分という短時間で数10mmもの総雨量を記録します。

こうした局地的大雨は狭い範囲で降り、かつ雨雲の発生から降雨までの時間が短いため「ゲリラ的に大雨が降る」という意味で「ゲリラ豪雨」と呼ばれることがあります。

現在の予測技術では降雨の場所や時刻、雨量を事前に正確に予測することが困難です。



雨の強さと降り方(1時間当たり)

雨量と雨の状態
10～20mm未満 やや強い雨 話し声が聞き取れない。長雨になりそうなら警戒が必要
20～30mm未満 強い雨 傘をさしていても濡れる。下水道や小さな川があふれる。小さながけ崩れが発生
30～50mm未満 激しい雨 傘が使えず、雨合羽が必要。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなる
50～80mm未満 非常に激しい雨 地面を叩きつけるような大雨が降り、水しぶきで視界がかすむ。土石流が起こりやすい
80mm以上 猛烈な雨 大きな災害が起こる恐れが強く、厳重な警戒が必要

1 わが家でできる「災害対策」

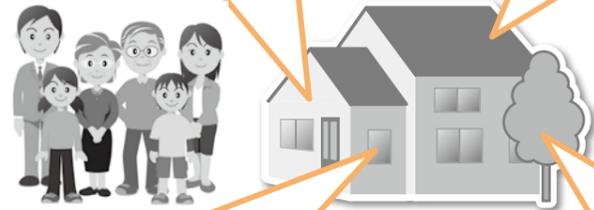
災害による被害を最小限に食い止めるためには、事前の備えが大切です。備蓄品の確認や家の周りの点検など、自宅ですることができる対策を確認しておきましょう。

屋根の備え

- 瓦のひび割れ・ずれ・はがれを補強する
- テレビアンテナをしっかりと固定する
- 車庫や物置などのトタン板が、風で吹き飛ばされないよう補強する

外壁・ベランダ・窓などの備え

- 壁の亀裂や腐っている箇所を補強する
- 雨戸のがたつきを修理する
- プロパンガスのボンベをしっかりと固定する
- 雨どいを掃除し、排水をスムーズにしておく
- ベランダの植木鉢など、風で飛ばされそうな物を室内に入れる
- 窓が割れた時のガラスの飛散を防ぐため、テープなどを貼る
- 飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドを閉めておく



塀や庭などの備え

- ブロック塀のひび割れや破損を補強する
- 側溝や排水溝のごみや木の葉などを取り除き、水はけを良くしておく
- 庭木に支柱を立てて補強する
- 庭の物干し竿や自転車など、風で飛ばされそうな物を室内に入れておく
- 任んでいる土地の特徴を把握しておく(くぼ地か、危険ながけはないかなど)
- 崩れそうながけがあれば、ビニールシートなどで覆い、雨の浸透を防止する



屋内での備え

- 非常持ち出し品を準備する
- 停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオを準備する
- 断水に備え、飲料水を確保する
- 浴槽に水を張るなどして、生活用水を確保する
- 浸水などの恐れがある場所には食料・衣類・寝具などを置かず、高い場所へ移動させる
- いざという時に避難する場所を確認しておく



家庭ですることができる浸水対策

浸水の恐れがある場合、家庭にあるもので簡単に作ることができる簡易水のうが有効です。

水のうの作り方

- 【用意するもの】
- ①40L程度のビニール袋
 - ②水
 - ③段ボール

【作り方】
1 ビニール袋を二重にし、半分くらいまで水を入れて固く袋を閉じる
2 玄関先など、浸水の恐れがある場所に隙間なく並べる
※段ボール箱に入れて並べると、積み重ねることができ、より強度を増すことができる



水のう作りの様子